



小水力エネルギー施設の調査

任意団体 自然エネルギー信州ネット

『信州自然エネルギー白書』の制作・発刊による地域に根ざした自然エネルギー利活用のための情報プラットフォームの構築

【信州自然エネルギー白書】第1号【2016年度版】を制作・発刊する **300部**

【信州自然エネルギー白書】制作過程を活用したセミナーの展開

2回

活動の全体目標に対する達成度

75%

入門助成

1年目

調査研究

課題

自然エネルギー資源に恵まれる長野県において、市民・事業者・行政の地域に根ざした自然エネルギーの利活用に向けた議論の土台となる基礎資料の集積が十分に進んでいない。

目標

長野県の自然エネルギー利活用の動向を俯瞰できる『信州自然エネルギー白書』を制作・発刊し、将来の自立的な制作・発刊を可能とする情報プラットフォームと地域支援体制を構築する。

活動内容

地域に根ざした自然エネルギーの普及と事業化支援に向けた、普及啓発と実践のためのツールとして、『自然エネルギー世界白書』(REN21)、『自然エネルギー白書』(ISEP)と連携する、日本初の地域版自然エネルギー白書としての位置づけを持つ『信州自然エネルギー白書』第1号(2016年度版)を制作・発刊した。制作の過程で県内で開かれた2回のセミナー・学習会で情報発信を行った。



木質バイオマスボイラーの導入状況調査

達成できなかったこと

全国初の地域版自然エネルギー白書であり、かつ限られた制作期間ゆえに、スケジュールに遅れが生じ、年度内にウェブサイトでの公開までには至らなかった。

今後の展望

『信州自然エネルギー白書』の発刊を自然エネルギー信州ネットの定型的事業としていきたい。

成果と工夫したポイント



成果

『信州自然エネルギー白書』第1号(2016年度版)を制作・発刊し、県民をはじめ、連携する地域協議会(18団体)や自治体(県内77市町村)等が参照できる状況を整えた。

工夫

政府や研究機関の統計だけでなく、地域ならではの「顔の見える」自然エネルギーの情報集積を行った。